

2022年度以前入学生対象 カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

1. 編成の方針

建学の精神「報恩感謝」ならびに教育理念「自立・創造・共生」に基づき、薬学部薬学科では、「科学的な専門知識と技能および実践力、高い倫理性と豊かな人間性を併せ持つ薬剤師の養成」を教育目標に定めている。このため、薬学部のカリキュラムは、薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠しつつ、かつ、ディプロマ・ポリシーに掲げた知識・技能・態度が卒業時までまでに修得できるよう、1年次から順次性のある学習成果基盤型のカリキュラム編成とする。

2. カリキュラムの構成

1)豊かな人間性と幅広い教養を備えることをめざし、共通教育科目として、建学の精神と教育理念に則った人格形成を行う「必修科目」、多様な教養を身につけさせる「選択科目」を配置している。

2)専門教育科目として、「必修科目」と「選択科目」を設定し、講義、実習、演習を連携させている。基礎系・医療系・衛生系・臨床系薬学科目又はアドバンスト科目へと順次性のある科目配置を行うことで、各科目の修得のレベルを高め、基礎力から実践・応用力を養うように工夫している。一方で、臨床や地域医療で求められる栄養に関する専門知識の修得や資格取得にもつながる、本学独自の養成講座を設けているのが特色である。

3. 教育内容・方法

1)報恩感謝の心と幅広い教養

I.互いの「いのち」を尊び、その恩をたずね、すべてのものに感謝する心を持てる学生を育てるために、「宗教学」「死生学」「生命倫理」を開講し、「建学の精神」の意識化を促す。ひいては、社会の発展と知見の創造、そして文化の向上に資する学生の人格形成を支援する。

II.幅広い教養を身につけ、見識ある社会人としての基礎を築き、また、情報を活用したり、多面的・多角的に思考したりする能力を養成するために、人文系科目、社会系科目、外国語科目、薬学導入科目など多様な共通教育科目を設置している。一方、薬剤師としての使命感及び倫理観、並びに、他者から信頼される人間性を養うために、ヒューマニズムや医療倫理に関連した科目並びに実務実習などを、全学年に亘って配置している。

2) 専門的な知識・技能

薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠し、専門教育科目を、「基礎系薬学科目」、「医療系・衛生系薬学科目」さらに「臨床系薬学科目」へと体系的に科目を配置する。4年次および6年次に「薬学演習科目」を配置し、それまでに修得した知識の統合を促す。さらに、医療や科学の進展に対応できる能力を身につけるために独自に定めた「アドバンスト科目」や「スキルアップセミナー」を開講する一方、学生の多様な進路やニーズに対応するためのキャリア教育科目を開講する。

3) 問題解決能力

問題に基づく学習、グループ討論、実験実習、実務実習、卒業研究など、全学年に亘る参加型学習を通して、観察力や創造力を育みつつ、修得した知識や技能を総合的に活用し、医療や研究の現場で発生する様々な問題に対処できる能力を養えるように体系的に科目を配置している。

4) 自律的・主体的・共感的態度

I. 医療や科学に関する情報の収集・分析・活用に関する科目、卒業研究やスキルアップセミナーを通して、継続して自己の専門性を高めるための技能と態度を養えるように編成している。

II. 患者に対応したりチーム内で効果的・効率的に活動するための技能と態度を養うために、コミュニケーション理論や演習の科目を体系的に配置している。

III. 実務に関連した科目並びに卒業研究を通して、後進を指導・育成する態度、並びに、他者と主体的に連携する態度を醸成するように編成している。

5) 実践力

地域の医療や衛生、および研究開発に貢献できる実践力を養うために、高学年次に実践的な専門科目やアドバンスト科目、又、実務に関連した科目並びに卒業研究を配置している。

4. 評価の方法

筆記試験、実技試験、発表、レポート、取り組み姿勢などを通して、各科目が目標とする知識・技能の修得度を評価する。実務実習や演習及び卒業研究では、日々の実習、学習活動、研究活動、取り組み姿勢などを通して、知識や技能を活用する能力を総合的に評価する。また、各年次における課題レポート、単位取得状況、パフォーマンスなどをもとに、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力と態度をどの程度身につけたかを評価し、卒業時に目標とするレベルの能力・資質を身につけているかどうかを最終判定する。